



ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その74

「福井市美術館」です。黒川紀章の設計により、1997年に完成しました。外部へ倒れ掛かるように傾いているガラスの壁が、うねりながら連続して続いています。この形状は、ガラスの逆円錐が、何本も地面に突き刺さりそれらの接点が融合したようで、結果アメーバ状の平面形を作っています。このパターンは、仕上素材を変えながら、幾つもの発展形を生んでいます。

CURRENTLY WORKS



クリニックと連携する靴店のデザインー その2

基本は、各々の足の不具合に合わせてオリジナル靴を制作する店ですが既製品靴の一部改造や、インソールでの症状軽減にも対応します。そのため、近隣の方々にも来店して頂き、足の不具合の相談にのることに力を入れており「おしゃれな靴店」で気軽に入れるよう求められました。「専門性」と「ファッション性」の両立を考慮してデザインしています。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その17

原研哉による「蹲方寸」です。撥水加工された細い「樋」と「大きな皿」から成り、水の粒が転がるように流れます。「皿」に至ると、半径を狭めながら回転を続け下の水盤へ落下します。2005年に金沢21世紀美術館での「もうひとつの楽園」展に出品され、竹山聖による「べにや無可有」の改修設計の際に、恒久設置されました。ずっと見ても飽きません。

EDITORIAL NOTE

9月 1日から3日にかけて、富山市八尾町で「おわら風の盆」が行われます。実際に見てはいませんが顔を隠して踊りながら、静かに街を練り歩く様は、他の盆踊りと比べても、異様さが際立っています。起源は、1702年に自治を得た町衆が三日三晩踊ったことですが、その後独自の踊りとなったようです。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島